

南箕輪ショッピングタウン造成工事に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

塩ノ井遺跡

上伊那郡南箕輪村塩ノ井

1994年

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

序

このたび、㈱フォルテが本村塩ノ井字丘下に大型ショッピングタウンを建設するに当たり、その土地が周知の文化財包蔵地であるため、村教育委員会として、遺跡の存在の有無を確認し、記録保存をするために緊急発掘調査を行いました。

この地域は長野県遺跡分布図（昭和52年）に示されている「塩ノ井遺跡」の範囲内にあり、また、箕輪町から南箕輪村へかけての天竜川西岸一帯に広がる水田農耕遺跡である「箕輪遺跡」の南端に当たり、農耕遺跡の出土が予想される場所でもありました。発掘の結果、予想に反して遺物も遺構も発見されませんでした。しかし、この一帯の土層断面が明らかになったことは、箕輪遺跡の範囲を知るうえでも大きな収穫でした。

この発掘に当たり、開発事業主の㈱フォルテ、および工事を請負われた㈱ヤマウラの皆さんには、埋蔵文化財保護の重要性について理解していただき、機材や資材の提供を始め、たいへんご協力をいただきました。ここに記して深く感謝申し上げます。

南箕輪村教育委員会

教育長 杉澤 崇

例 言

1. 本書は長野県上伊那郡南箕輪村字丘下397-1他に所在する塩ノ井遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は㈱フォルテによる南箕輪ショッピングタウン造成工事にとまない、南箕輪村教育委員会が行ったものである。
3. 調査・整理にあたっての資料は教育委員会で保管している。

目 次

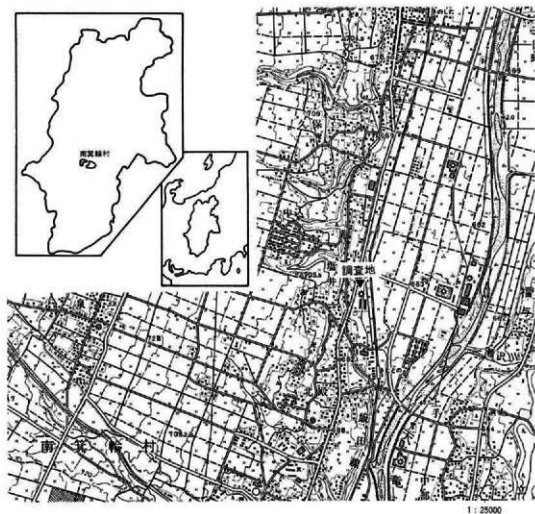
序	
例 言	
目 次	
I 遺跡の立地	1
1. 位置 2. 環境	
II 調査の経過	3
1. 調査の経過 2. 調査組織	
III 調査の結果	5
1. 調査の結果 2. まとめ	

I 遺跡の立地

1. 位置

塩ノ井遺跡は伊那盆地北部の天竜川右岸に形成された南箕輪村と箕輪町にかけて広がる沖積地の南西、塩ノ井字丘下3971-1に位置している。

交通上でみると周囲には東にJR飯田線、西に国道153号線がそれぞれ南北に走っており、遺跡はその2つの間隔が狭まりはじめるところにある。また、旧道（伊那街道）と国道153号線が交差している地点に接しているところでもあり、標高661mを示している。



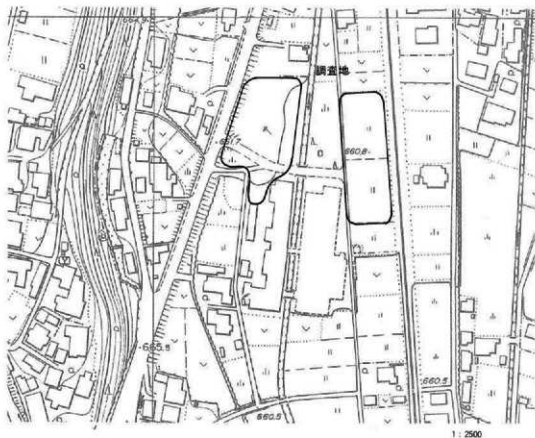
第1図 位置図

2. 環 境

南箕輪村は山地と木曾山脈の経ヶ岳、大泉所山、黒沢山から流れ出る大泉川によりそのほとんどが形成された扇状地、天竜川の沖積地から成っている。塩ノ井遺跡はその扇端部、沖積面との比高約18mの段丘崖麓の沖積地に位置し、扇端部からの豊富な湧水は南沢川、滝ノ沢川、榎ノ木沢川等、幾つかの小河川となり遺跡の横を流れる黒川に合流している。

以前は天竜川により形成された後背湿地と扇端部からの湧水で、遺跡の周辺は大湿地帯であったが、昭和27年に行なわれた土地改良事業により整地されている。

南箕輪村の遺跡分布をみる場合、天竜川河岸段丘上の遺跡群と天竜川の支流である大泉川、大清水川、戸谷川の縁辺にあるものの2つに分けることができるが、天竜川河岸段丘の遺跡群は沖積地に接する久保地区から北殿地区にかけて、特に多くみることができる。天伯・北垣外遺跡に代表されるようにその規模は大きく、密度は高い。縄文時代から平安時代まで隔たりなく遺跡があることは地形的に水利に恵まれていたことなど、この付近の居住性の良さがうかがえる。



第2図 周辺地形図

Ⅱ 調査の経過

1. 調査の経過

平成6年2月に塩ノ井遺跡で大型店舗用地の開発があるとの連絡があり、2月10日の庁内協議により発掘調査による記録保存をおこなうこととなった。

塩ノ井遺跡は周知の遺跡とされているものの、現状は指定地の半分はすでに工場跡地で施設が建設されており、昭和30年代の造成段階ですでに破壊されているおそれがあったが、県文化課との協議により現状で調査可能な工場北側の空地と、箕輪遺跡の一部に入るのはないかとみられている工場施設の東側にある水田の2ヶ所を調査することとなった。しかし、遺跡の資料が乏しく性格が不明確であったため、2月25日に一部、試掘調査を行い土壌の堆積状態を確認した。

その結果、工場造成は客土による盛土であり、その下層は沖積地にみられる粘土層と泥炭層によるもので攪乱を受けてなかったため、当初の予想よりも比較的保存状況のよい水田遺構に関係するものではないかと思われた。この結果をふまえて、6月13日から全面的な試掘をおこなったが遺構・遺物は認められず、6月24日調査を終了した。

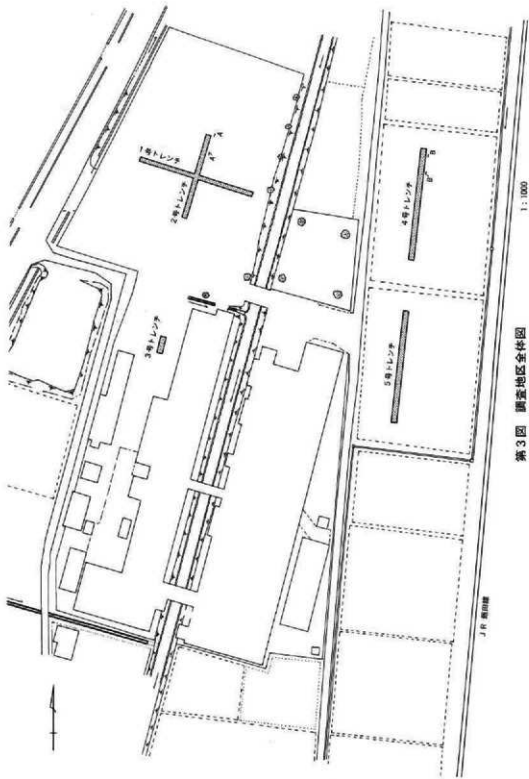
2. 調査組織

団 長	杉澤 崇	南箕輪村教育委員会教育長
調査主任	友松 論	南箕輪村教育委員会学芸員
調 査 員	唐沢孝男	南箕輪村教育委員会社会教育係

調査に参加された方々（順不動） 小沢よね子 唐沢容子

事務局

唐沢 謙男	南箕輪村教育次長
唐沢 由江	南箕輪村社会教育係長



第3図 調査地区全体図

1:1000

III 調査の結果

1. 調査の結果

調査は5本のトレンチを掘削し確認をおこなった。調査地西の空地部分では沼であったと思われる窪地があり、そこで土地改良以前まであったと思われる小河川跡を2本、3号トレンチで1本確認したのみで、その他の遺構・遺物は確認されなかった。

調査地東側の水田は2本のトレンチを掘削したが、土地改良時に運んできた現在の耕土の下層は客土による礫と自然堆積による砂層と礫層がひろがっており遺構・遺物は認められなかった。

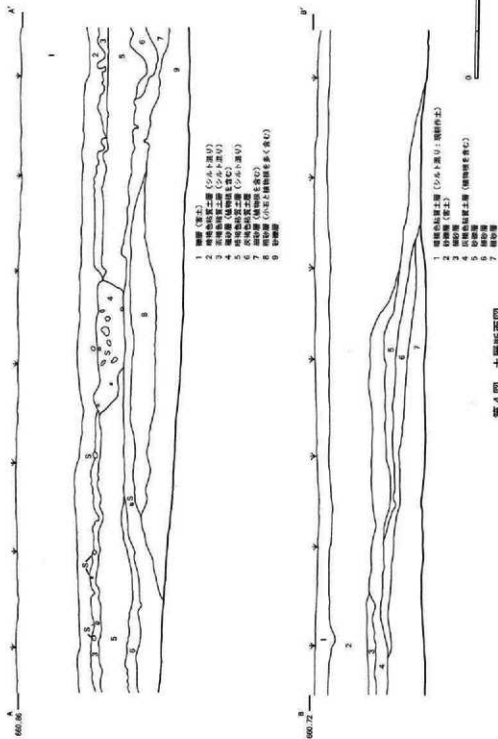
2. まとめ

塩ノ井遺跡は周知の遺跡として知られていたが、今回の調査範囲内では遺構・遺物は確認できなかった。当初、水田遺構に関係するものと思われたが資料のない現段階では、塩ノ井遺跡の性格についてこれを判断することはできない。

同遺跡が位置する沖積地は幾度となく繰り返された天竜川河道の変遷や開田作業、土地改良事業により、地形・地質ともに複雑化し均一性がないため、そのような条件のもとでの調査には多くの疑問と課題が残る。

塩ノ井遺跡の南には同様に段丘崖麓に位置する東垣外・西垣外遺跡があるが、段丘上の遺跡群と箕輪遺跡の中間に位置するこれらの遺跡の性格を明らかにすることは、様々な面を考察する上において大切なことである。開発の波が押し寄せる現在、今後の調査・研究による一層の努力が必要であろう。

末筆になりましたが、調査にご理解とご協力をいただいた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。



第4図 土層断面図

1
 01
 1



1.調査地（西側）

2.1号トレンチ土層断面



3.5号トレンチ 4.5号トレンチ土層断面

塩ノ井遺跡

南箕輪ショッピングタウン造成工事に
伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

1994年10月 印刷

1994年10月 発行

発行所 長野県南箕輪村教育委員会

印刷所 伊那市 榊小松総合印刷所

